

## 資料4-7

# 「事業用自動車総合安全プラン2020」の 取組状況等について

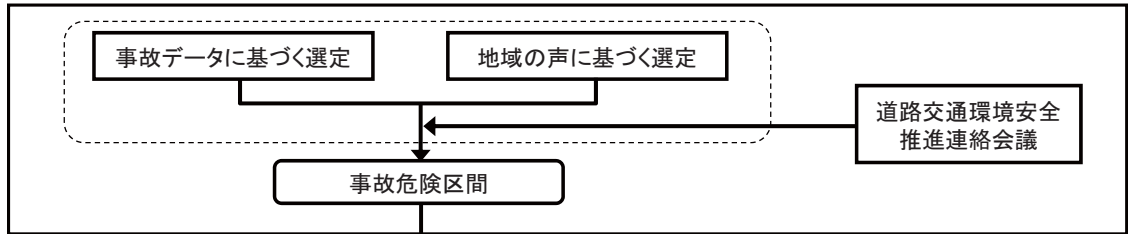
近畿地方整備局 道路部交通対策課

## 近畿地域事業用自動車安全対策会議

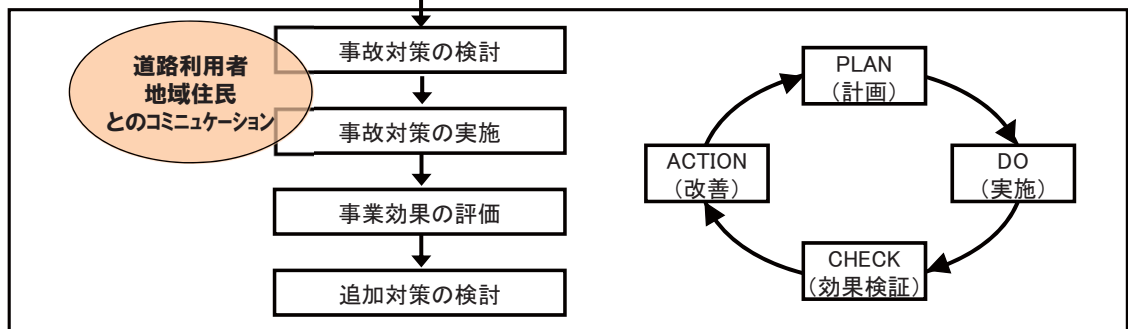
- ・事故データや地域の声等に基づいた「事故危険区間」を選定し、「事故ゼロプラン」(事故危険区間重点解消作戦)の取り組みを推進
- ・優先度の高い箇所重点化するとともに、対策完了後はその効果を計測・評価し、マネジメントサイクルにより地区自改善するというPDCA型で取り組みを進める。

事故ゼロプラン

## ◆事故危険区間の選定



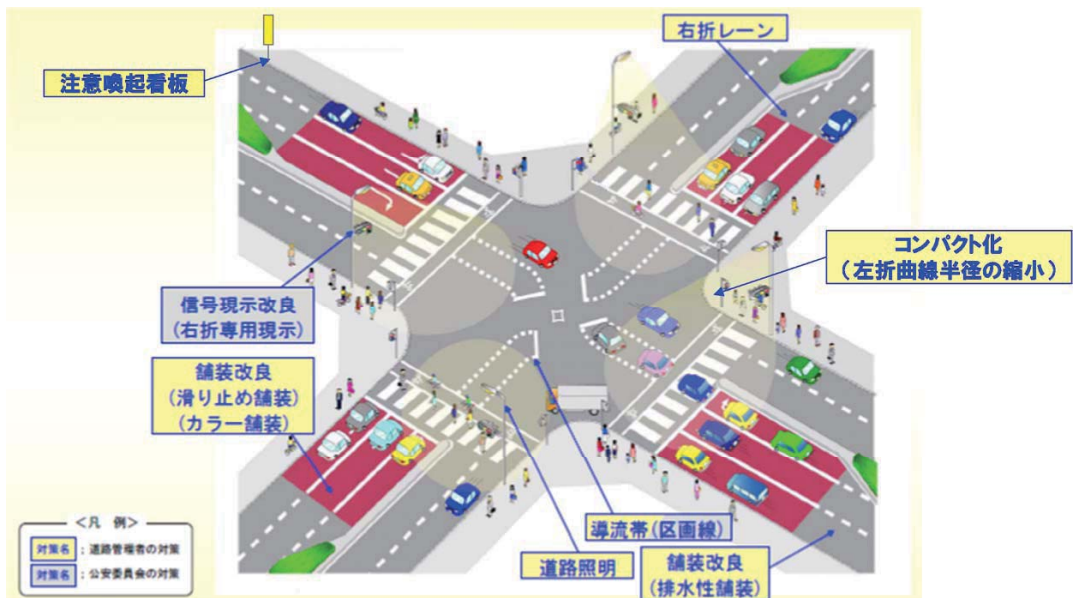
## ◆事故対策の進め方



## 交差点メニュー例

- ◆交差点及び周辺で発生した事故原因を分析、事故の減少につながる対策を立案
  - ・コンパクト化
  - ・右折専用レーン
  - ・誘導帯
  - ・カラー舗装、排水性舗装
  - ・道路照明灯
  - ・注意喚起看板
  - など

## ◆警察と連携して対策を実施



○平成24年4月以降、京都府亀岡市などで相次いで登下校中の児童生徒等が巻き込まれる交通事故が発生



○道路管理者、学校・教育委員会、警察、PTA等による通学路の緊急合同点検を実施

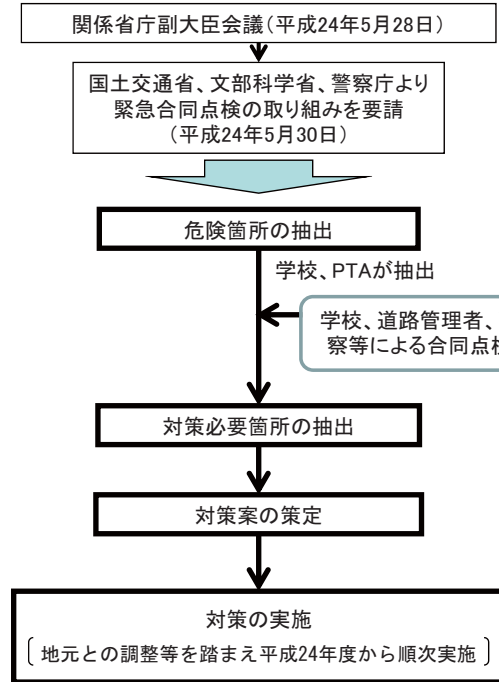
①緊急合同点検の結果(平成24年11月30日現在)

- 緊急合同点検実施学校数 : 20,160校
- 緊急合同点検実施箇所数 : 80,161箇所
- 対策必要箇所数 : 74,483箇所

②対策必要箇所の内訳及び対策状況(平成26年度末時点)

- 対策必要箇所数 : 74,483箇所(うち66,404箇所対策済)
- ・道路管理者による対策 : 45,060箇所(うち38,977箇所対策済)
- ・学校等による対策 : 29,586箇所(うち29,107箇所対策済)
- ・警察による対策 : 19,715箇所(うち18,939箇所対策済)

## 《通学路の緊急合同点検の実施フロー》

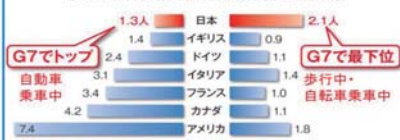


生活道路において、ビッグデータを活用した交通安全対策の取り組みを実施中。

### 【交通事故の状況】

■自動車乗車中はG7で最も安全  
歩行者・自転車乗車中はG7で最下位

【人口10万人あたり交通事故死者数の比較】



■生活道路の事故件数は、幹線道路と比較し減少率が小さい

【道路種別の交通事故件数の推移】



■約半数が自宅から500m以内で発生

【自宅からの距離別死者数(歩行者・自転車)】



■衝突速度が30km/hを超えると致死率が急激に上昇

【生活道路の速度別の致死率】



### ＜事故データによる抽出＞

■事故データを活用し、対策候補エリアを抽出



### ＜ビッグデータを活用した生活道路対策＞

【これまで】

■事故発生箇所に対する対症療法型対策



【今後】

■速度超過、急ブレーキ多発、抜け道等の急所を事前に特定



効果的な速度低減策を実施

【対策例】



ETC2.0は、これまでのETCと比べて、

- ・大量の情報の送受信が可能となる
- ・ICの出入り情報だけでなく、経路情報の把握が可能となる

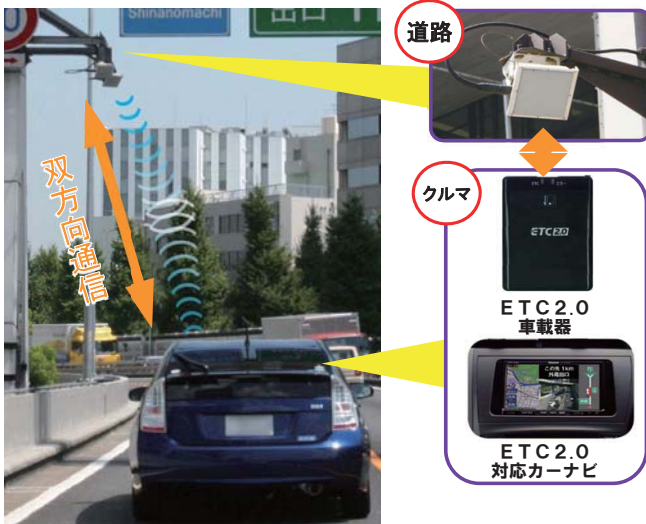
など、格段と進化した機能を有しており、道路利用者はもちろん、道路政策に様々なメリット※をもたらす、ITS推進に大きく寄与するシステムです。

※ETC2.0で期待されるサービス例

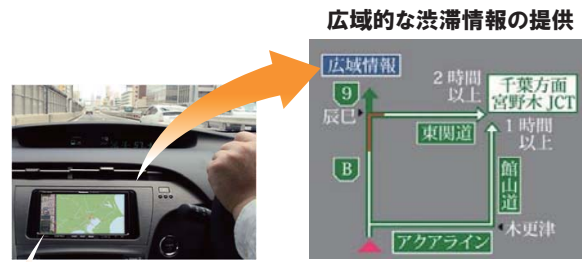
- ・経路上の広域情報や画像の提供
- ・特車許可における一括申請や自動更新
- ・高速料金の経路割引や一時退出



## 双方向に大量の情報の送受信



## 経路上の広域情報や画像の提供



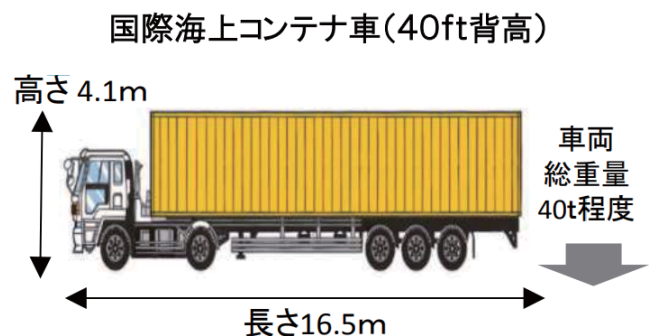
事故多発箇所ではカーブ先の見えない渋滞など危険な状況を注意喚起



# 重要物流道路制度の新設

平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、**物流上重要な道路輸送網を「重要物流道路」として指定し、機能強化、重点支援を実施。**

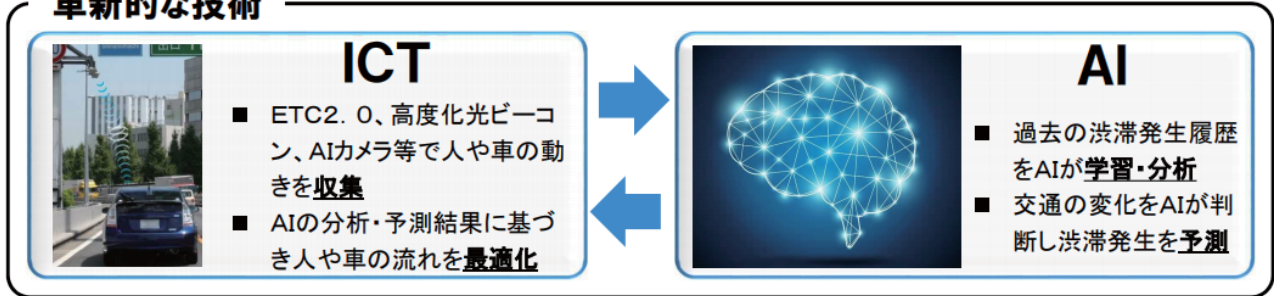
- ・国際海上コンテナ車等の円滑な通行を図るため、通常の道路より水準が高い構造基準を設定。
- ・当該基準を満たした道路については**国際海上コンテナ車等の通行に係る許可を不要とする。**
- ・重要物流道路及びその代替・補完路について、**災害時の道路啓開・災害復旧を国が代行。**



平常時・災害時を問わず、**安定的かつ安全・円滑に利用可能な道路網を確保。**

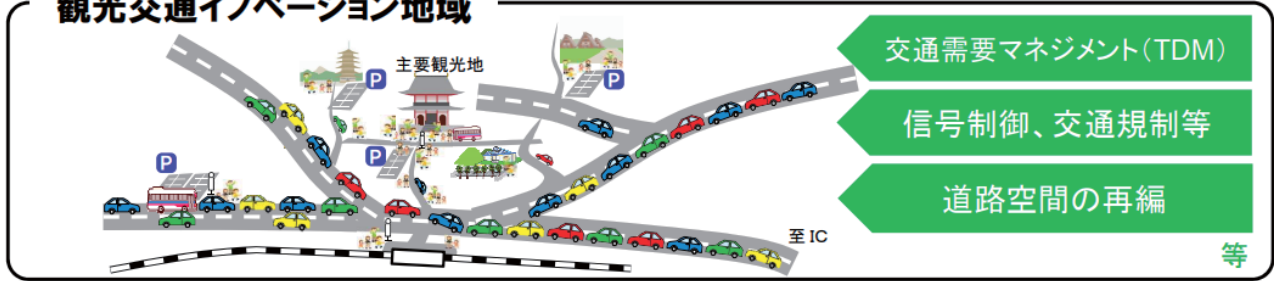
- 観光地周辺で広域的に発生する渋滞を解消し、回遊性が高く、円滑な移動が可能な魅力ある観光地を創造するため、ICT・AI等の革新的な技術を活用し、警察や観光部局とも連携しながら、エリアプライシングを含む交通需要制御などのエリア観光渋滞対策の実験・実装を推進・支援。

革新的な技術

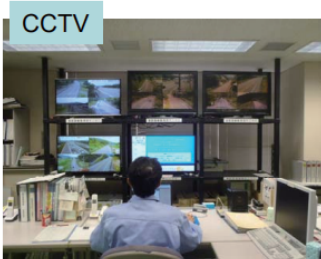


ビッグデータ(観光客・車・公共交通等)      エリアマネジメント

観光交通イノベーション地域



【現在】人による情報収集



画面の情報  
現地通報情報

交通障害の確認

現地対応

【今後】AI技術活用による情報収集体制の強化を検討

CCTV+AI技術活用による交通障害自動検知



事象発生(一定期間継続)

- ・交通量、速度の急激な低下
- ・停止車両発生

交通障害自動検知

(道路管理者間で速やかに共有)

現地対応(立ち往生車早期移動措置等)

AIによる自動検知のイメージ(滞留車両の発生)



検討の手順

AIによる交通流計測の試行、性能評価  
・CCTV画像による検出率の検証

発生事象検出機能の構築、試行  
・CCTV画像による交通障害自動検知機能構築・検証  
・CCTVの増設

交通障害自動検知システムの試行  
(今年度冬期)

試行結果の検証  
・必要に応じてシステムの改善  
・本格導入